

3 基本計画の位置付け

(1) まちづくり全体に関わる計画

○本市のまちづくりの課題を解決し、目指す将来像の実現に資するため、酒田コミュニケーションポールの整備・運営を進めていきます。

① 酒田市総合計画

1市3町による合併後の平成19年9月に策定された「酒田市総合計画」（計画期間は、平成20年度から平成29年度まで）では、「雇用の拡大」と「人口減少の抑制」を最重要課題と捉え、基本理念と都市の将来像を、次のとおりとしています。

<基本理念>

心豊かに健やかで未来に向かうまちづくり	【人】
誇りと信頼にあふれる協働のまちづくり	【ふるさと】
創造が世界に広がる活力あるまちづくり	【交流】

<将来の都市像>

人いきいき まち快適 未来創造都市 酒田

この実現のため、施策の大綱（8つの柱）として

- ・公益の心を育むまち
- ・元気があふれるまち
- ・地域力が高いまち
- ・安全と安心を実感できるまち
- ・潤いと美しいが広がるまち
- ・賑わいと活力に満ちたまち
- ・明日を拓く交流のまち
- ・市民のための質の高い行財政運営

を定め、選択と集中の視点のもと、「雇用創造」「市民元気」「個性創造」「まち快適」を4つの重点プロジェクトとして推進してきています。

計画策定から5年経過した中間見直しにおいては、「人口減少、少子高齢化対策」を市の最重要課題と位置付けています。

なお、現在、平成30年度からの次期酒田市総合計画を策定作業中ですが、本基本計画で定める目標や方針との整合性を図ります。

② 酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

酒田市総合計画を基本に、平成27年10月に策定された「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、酒田市人口ビジョンに掲げた人口の将来展望（2060年の段階で7万5千人程度）を実現していくため、次の4つの基本目標を掲げています。

- I. “働きたい”がかなう酒田をつくる
- II. 酒田への新しい人の流れをつくる
- III. “結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる
- IV. “つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる

これらの計画及び戦略は、本市の将来を展望する上で最も重要なものであり、駅周辺整備事業や酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業も、これらの計画及び戦略を実現するための施策として位置付けられているところです。酒田コミュニケーションポートの目指すべき方向性、あり方（必要な機能やサービス等）については、これらの上位計画の基本理念等の実現を基本としていくこととなります。

(2) 関連する主な個別計画

○各分野の施策と連携しながら、酒田コミュニケーションポートの魅力づくりを行っていきます。

酒田コミュニケーションポートを構成する機能である「ライブラリーセンター」「観光情報センター」「駐車場」「バスベイ」に関わる個別計画として、次のものがあります。

酒田駅周辺地区のまちづくりや酒田コミュニケーションポートの最終的な目標は、基本計画に基づく展開のみで実現できるものではありません。

厳しい市の財政状況や限られた資源配分を考えれば、自ら単独としてではなく、様々な分野と連携し、有機的に交わりながら、オール酒田を意識し、推進していく必要があります。中心市街地活性化分野、観光分野、公共交通分野等、それぞれが発展していくことが、酒田コミュニケーションポートの更なる活性化にも繋がり、それが魅力的な施設運営になると考えます。

様々な分野とのネットワークを積極的に構築して、進めていきます。

① 酒田市中心市街地活性化基本計画

【中心市街地活性化 × 酒田コミュニケーションポート】

平成27年3月に策定された「酒田市中心市街地活性化基本計画」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、「湊まちルネッサンス（再興）－湊のにぎわいと交流のあるまちづくり－」を基本理念に、「にぎわいあふれる商業のまち」「訪ねて楽しい観光のまち」「市民が集う交流のまち」の3つの基本方針の実現を目標としています。

事業推進にあたっては、中心市街地内に5つの拠点エリア（駅周辺、山居倉庫周辺、中町、港、日和山・台町）を設定し、拠点エリアごとの特色を活かした整備を進め、拠点エリア間の回遊性の向上を図り、相乗効果によるにぎわい創出を図るとして

います。

◆関連する主な取組み内容

・駅周辺エリア

J R酒田駅を中心とした地区である。長年、本市の大きな課題となっている大型商業施設跡地、駅前広場、駅舎を含め、本市の玄関口としてふさわしい駅前地区を目指した整備を図っていく。

・回遊性向上の推進

5つの特色ある拠点エリアを有機的に結び付け、相乗効果を図ることを目的に各エリアの回遊性の向上を図る事業（中心市街地循環バス運行事業、街なかサイン整備事業、観光用自転車運行事業等）を積極的に展開していく。

② 酒田市教育振興基本計画 【教育 × 酒田コミュニケーションポート】

平成22年4月策定の「酒田市教育振興基本計画」（計画期間は、平成22年度から平成31年度まで）では、次の3つの教育目標を定めています。

- ・「いのち」を大切にし、健やかな体と心を持つ人をはぐくむ
- ・「まなび」を通して、自立する人をはぐくむ
- ・広い「かかわり」の中で、郷土を愛し、公益の心をもって社会に貢献する人をはぐくむ

◆関連する主な教育施策内容

○基本的方向 世代を超えてまなびあう

○図書館活動の充実

○図書館機能の充実<図書館>

- ・年齢・性別・月別等のデータを分析し、個別需要に応じた適切な選書
- ・多方面での情報収集により郷土資料や本市出身の作家関係資料の収集
- ・中央図書館、各分館、ひらた図書センターや東北公益医科大学メディアセンターとの連携により、市民の要望への対応、利便性の向上
- ・図書館施設の整備の検討
- ・展示スペースの拡大、来館者に新鮮な情報提供、利用者のスキルアップを目的にした講座の開催
- ・高齢者や視覚障がい者への利用拡大のため、大活字本や朗読CDのさらなる充実
- ・雑誌スポンサー制度を導入して、企業の宣伝と社会活動の場の提供と雑誌閲覧の充実

③ 酒田市生涯学習推進計画 【生涯学習 × 酒田コミュニケーションポート】

平成25年4月策定の「酒田市生涯学習推進計画」（計画期間は、平成25年度から平成31年度まで）では、「「いつでも」「どこでも」「だれでも」 つなげよう

学び 公益の心 拓こう明日の酒田～学びの扉を開けてみよう～」をキャッチフレーズとし、次の3つの基本目標を定めています。

- ・『人づくり』・・・学びで高めよう公益の心
- ・『仲間づくり』・・・学びで広げよう仲間の輪
- ・『地域づくり』・・・学びの成果をつないで興そう地域コミュニティ

◆関連する主な施策の展開

- ・人材の活用と育成
- ・高度情報化等利用者ニーズへの対応
- ・乳幼児期：親子でのふれあいをはぐくむ機会の充実
- ・少年期：「生きる力」をはぐくむための学習機会の提供
- ・地域生涯学習関連施設の有効活用

④ 酒田市子ども読書活動推進計画

【子ども読書 × 酒田コミュニケーションポート】

平成28年3月策定の「酒田市子ども読書活動推進計画」（計画期間は、平成28年度から平成32年度まで）では、次の基本方針を定めています。

- ・幼少期に身に付けた読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援する

- 1 子どもたちの身近に本があること
- 2 子どもたちの身近に本に親しむ場所があること
- 3 子どもたちの身近にいる大人たちが、子どもと本をつなぐこと

その中で、新重点施策として「「読書手帳」を活用しよう」「「家読（うちどく）」をはじめましょう」を打ち出しています。

◆4つの施策体系

- ・家庭における読書活動の推進
- ・保育園・幼稚園等における読書活動の推進
- ・地域における読書活動の推進
- ・学校における読書活動の推進

⑤ 酒田市子ども・子育て支援事業計画（酒田っ子すくすくプラン）

【子育て × 酒田コミュニケーションポート】

平成27年3月策定の「酒田市子ども・子育て支援事業計画」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、基本理念として、家庭、地域、社会が全体で、次のことを目指すとしています。

- ・すべての子どもが大切にされ健やかに成長できるまち
- ・子育てに喜びや生きがいを感じられるまち
- ・子どもを生み育てやすいまち

その上で、次の2つの目標を設定しています。

- ・【子どもの姿】 生きる力と豊かな心で たくましく未来をつくる 酒田っ子

- ・【まちの姿】 家庭 地域 社会 みんなで支え育むまち 酒田

◆関連する主な施策方針

- ・子どもと保護者の居場所づくりの推進
- ・子どもの生きる力の育成に向けた学校等の教育環境の整備
- ・家庭や地域の教育力の向上

⑥ 酒田市中長期観光戦略 **【観光 × 酒田コミュニケーションポート】**

平成 28 年 3 月策定の「酒田市中長期観光戦略」（計画期間は、平成 28 年度から平成 37 年度まで）では、次の 7 つの方針を定めています。

- ・「これなら人を呼べる酒田の“ウリ”」の確立
- ・既存観光資源のリノベーションと新たな観光資源の活用
- ・酒田の「オリジナル・ストーリー」の確立
- ・酒田の個性を光らせる「サブ・ストーリー（新酒田物語）」の創出
- ・地域の総合力を活かす
- ・庄内地域が連携して取り組む広域観光連携
- ・酒田の観光の魅力の発信

その上で、オリジナル・ストーリーを、“交易”と“公益”を 2 つの柱として、「K O E K I（交易と公益）のまち・酒田～港町文化とおもてなしのまち・酒田～」と設定し、酒田の「強み」である「歴史・伝統」「食・食文化」「自然景観」「公益と豪商」を 4 つのサブ・ストーリーとして設定しています。

なお、本戦略のスローガンは、「広めよう！“酒田自慢” 増やそう！“酒田ファン”」としています。

◆関連する主な取組み内容

- ・地域の商工関係者や市民を巻き込んで、地域の総合力を活かせる体制構築とプログラムづくり
- ・回遊性を高める観光ルートの創設（施策例として）
- ・街あるき観光の推進（施策例として）
- ・広域観光圏との連携
- ・地域プラットフォームの創設

⑦ 酒田市地域公共交通網形成計画

【公共交通 × 酒田コミュニケーションポート】

平成 28 年 7 月策定の「酒田市地域公共交通網形成計画」（計画期間は、平成 28 年度から平成 32 年度まで）では、「人と地域の交流を支える公共交通～市民とともに、持続可能な交通網を形成し、コンパクト＋ネットワークを実現～」を基本理念とし、「将来のまちの姿を見据えた持続可能な公共交通」「地域の交流・発展を支える

公共交通」「市民協働で取り組み、利用者目線で考える公共交通」の3つを基本方針としています。

◆関連する主な取り組み内容（重点事業）

- ・市街地における拠点の整備
酒田駅前付近・中町・日本海総合病院を市街地における主要拠点として位置付け、乗り入れの充実や交通機関同士の乗り継ぎしやすさの向上、快適な待ち合い環境の確保等を図ります。
- ・主要拠点間の交通ネットワーク充実
- ・交通拠点における接続性向上
- ・待合環境の確保
- ・観光バス車両の新たな活用

⑧ 酒田市公共施設適正化基本計画

【公施適正 × 酒田コミュニケーションポート】

平成 27 年 3 月策定の「酒田市公共施設適正化基本計画」（計画期間は、平成 27 年度から平成 66 年度まで）では、「量的マネジメントー施設総量の削減ー」「質的マネジメントーサービスの向上ー」「財政的マネジメントー運営等の効率化ー」を公共施設適正化マネジメントの 3 原則としています。

◆関連する主な施策方針

- ・施設の複合化・多機能化
- ・ひとや環境に優しい公共施設の実現
- ・公民連携等による経費の抑制

このほかにも、福祉・医療、スポーツや市民ボランティア、民間の経済活動等、様々な分野が活動されており、縦割りでない連携を図ります。もちろん、「選択と集中」の視点を持ちつつ、酒田コミュニケーションポートの運営を通じて本市の地域課題の解決に資していく必要があります。

将来の市の都市像（市総合計画）

酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略



連携し、つながって、本市の地域課題の解決に資する

